

ムラサキシジミは♂♀ともに翅表に明るい青紫色の鱗粉を配し、太陽光線を受けながら木々の葉っぱ上で思いっきりその美しい色をみせてくれる、暖地性のシジミチョウである。現在知られる北限の採集記録は宮城県で、南は沖縄、八重山諸島でもみられる。高知市五台山産との大きさの違いがわかるように標本写真を添付します。♂は紫色が羽全体に均一に広がり、♀では前翅で明らかに♂とは異なるくびれ部分があって色調も明るい青紫であることから雌雄の判別は容易。幼虫は通常、アラカシ、アカガシ、



May 30, 1971 高知市五台山 ムラサキシジミ♂



June 5, 2008 加古川市志方町 ムラサキシジミ♀

シラカシ、イチイガシなどのカシの仲間を、好んでヒコ生えなどの新芽を食べ、葉っぱを筒状に巻き込んだ目に付きやすい巣をつくってその中に潜むので見つけるのは簡単である。カシ類の新芽が少なくなる夏季にはコナラやクヌギ、ミズナラなども食べるとされるが、養父市ハチ高原や加古川市平荘町の岩山地帯に発生する個体は特に大型で、幼虫時代の食性と関係があると考えられる。ムラサキツバメと同じく、わらじに似た形態の幼虫のまわりにはアリがうろうろしている。というのは幼虫が蜜腺をもっていてそこから甘い蜜を分泌し、それをアリがなめにくる殻で、シジミチョウの仲間にはアリと完全に共生するものもいて、蜜で誘惑してアリに巣まで運んでもらい、密かにアリの卵や幼虫を食って育つ、まさに肉食のチョウ：ゴマシジミもいる。ムラサキシジミはあくまでカシ類の葉っぱを食べて育ち、幼虫が蜜を出してアリがそれをなめることがムラサキシジミにとっていったいどういう意味があるのか、実際にアリの存在なしで正常に成育することは卵からの飼育でいくらかでも観察できるわけで、蜜を分泌するという習性はまるで意味のないことのように思えてしまう。野外では落葉のあいだにもぐりこんで蛹になるらしく、筆者はまだ自然界で蛹を見たことがないが、飼育中に蛹に触れるとムラサキツバメでも同様に「さわらないで」といいたいのか「チッチッチ」と音をだす習性はよく知られている。なぜこのような音を出すのかについて詳細はわかっていない。

ムラサキシジミもチョウのまま越冬するが、ムラサキツバメのような集団をつくることはなく、例えばビワの葉っぱのあいだで1頭きりで寂しく冬をしのぐ姿の観察例などがある。このチョウの裏面はムラサキツバメと同じく灰褐色に斑点模様があって、羽を閉じてとまっている姿は枯葉にも似ており、その居場所によってはすぐれた擬態効果を発揮する。

高砂市松波町では自動車道路沿いに植栽されたカシ類の街路樹がヒコ生えを出している時期に、どこから飛来したのかムラサキシジミの♀がその若葉に産卵しようとしている場面に出くわしたことがあるが、そのときは結局産卵することなく飛び去ってしまった。普通は、直射日光があたることの少ない林縁のカシ類を好む傾向があり、松波町の現在の街路樹環境はムラサキシジミには不相当と判断されたのかと思ったのだが、

Mar.19,2009 松波町  
ムラサキシジミ ♀

Mar.18,2009 高砂市松波町

高砂市松波町では自動車道路沿いに植栽されたカシ類の街路樹がヒコ生えを出している時期に、どこから飛来したのかムラサキシジミの♀がその若葉に産卵しようとしている場面に出くわしたことがあるが、そのときは結局産卵することなく飛び去ってしまった。普通は、直射日光があたることの少ない林縁のカシ類を好む傾向があり、松波町の現在の街路樹環境はムラサキシジミには不相当と判断されたのかと思ったのだが、

2009年3月18日に越冬後のきれいな♀、翌日には♂が全く同じ人家垣根で日向ぼっこをする場面に出会い、こんなにきれいなチョウが身近にいてくれるとうれしくなる。

Oct. 7, 2018 テニスの合間にチョウタイム Ser.1

色とりどりのナデシコの花が植栽されていて、チャバネセセリがよく目立つ花にとまるのを撮影していると、褐色の大きめのチョウが忙しい飛翔で現れる。ムラサキシジミだ。この公園の垣根を構成しているウバメガシで発生したと思われるが、例年観察できる個体数はとても少ない。



ナデシコの白花、次いで赤花で夢中に吸蜜した後、いくつかの花を転飛するのについて回る。飛び立つ瞬間にわずかに翅表の紫が輝くがその場では雌雄の判別ができない。花の蜜を堪能したのか、筆者のストーカー行為を嫌っての一時休憩なのか、ウバメガシからクスノキへと垣根が入れ変わったところに移動して、間歇的な開翅動作を繰り返す。翅表を開いて見せてくれるこの時点で初めて♀だとわかるが、この時期の♀はとても美しい。

Dec. 1, 2018 師走に入っても飛ぶチョウ

12月に入った高砂公園で、ウバメガシの垣根にムラサキシジミを探すと、いつもの日当たりがいい場所でチラリと紫を輝かせた個体が飛ぶ。見失わないように小さな個体を追うと、色調からムラサキシジミの♂だと思うが、とまったあと少しも開翅してくれない。とにかく12月に入ってもまだ飛び遊ぶ個体があったという記録だけはとっておく。テニスを終えた後、再びムラサキシジミのいる場所へと向かい、ウバメガシをゆすって飛び出す個体の動きを追う。決して邪魔にならないように近づいているのに、ストーカー的行動を嫌ってか、ヒバの樹の高い位置へと飛び移ってしまう。少し居場所を変えたりしたあと、あいかかわらず高い位置でようやく開翅姿勢をとるが、撮影ができない角度。仕方なく、枝をゆすって飛び立ってもらおうとウバメガシの新芽部分に落ち着くけれど、低い位置ではまだ開翅してくれない。そこへ別の個体が現れて、まもなく開始し始める。ムラサキ色調が濃い♂だ。太陽光の反射



具合でその美しさが変わる様子をビデオ記録していると、いつのまにか目の高さの葉上へと移っていた最初の個体がやっと開翅してくれている。こちらは色調がうすい♀だ。両個体を撮りこむ画像の記録もとったあと、♀の方がまるで越冬場所を探すかのような挙動をみせるので追ってみ

ると、枯れ葉が重なる場所へと潜り込んでいる。この場所を越冬場所と決めたと考え、裏面の色調が保護色となるみごとな選択となっている。

#### Nov. 9, 2019 テニスの合間に（土曜篇）

高砂公園のウバメガシ垣根で発生を繰り返しているムラサキシジミは、夏場に姿を見ることはめったになく、秋の越冬前の時期になると不思議に毎年その姿を見せてくれる。その場所は年によって違って、今年もテニスコートから最も遠く離れた場所での出会いとなった。花壇に植栽されたパンジーを訪れたツマグロヒョウモンの♀は離れた路面で翅の開閉を繰り返し、ナデシコの花蜜に夢中となっているモンキチョウも見られた。



#### Nov. 10, 2019 タニスの合間に（日曜篇）

テニスコートへともどろろと歩く間もムラサキシジミを探し、昨年複数頭の越冬準備を観察できた場所を再確認すると、まさに翅を広げて日光浴中の♀がいるのに気づく。この個体をしっかり撮影記録してみて、昨日のムラサキシジミは♀ではなく♂だったことがはっきりした。

